

理科 第3学年 太陽とかげ 検討会の想定問答

指摘 1：本時で何を見取るのか。

返し：観察した共通点や違いを基に、「太陽の位置が変わると、かげの向きはどう変わるだろうか」につながる問題を見だし、表現している。結論だけではなく、どの事実を選び、なぜその事実で説明できると考えたかを見る。B(2)の学習を具体的な記録で確かめる。

指摘 2：活動だけで終わらないか。

返し：同じ棒のかげを同じ場所で時間をおいて記録し、方位を書き添える。太陽の見える方向を安全な方法で確認し、かげの向きと対にして矢印で表す。観察できない時間の結果は作らず空欄にする。活動後に中心の問いへ戻り、事実と説明を線でつなぐ。B(2)で求める理解と表現をそこで確かめる。

指摘 3：予想と違う結果が出た場合はどうするか。

返し：かげが動くのは棒が動いたからという予想には、棒の位置が変わらない記録を示す。太陽とかげを同じ向きに描く子には、光を遮る物の反対側を模型で確かめる。予想に合わせて結果を書き換えず、条件や資料の読み方を再確認する。B(2)に関わる考えを見直す学習として扱う。

指摘 4：説明や記述が難しい子にはどうするか。

返し：比較する記録を並べ、対象・条件・時期を指差して話せるようにする。記録を重ねて向きの変化を比較する活動では、教師が比較の視点を示してから児童の言葉で説明を聞く。代筆や図の使用は認めるが、考えそのものを教師が決めない。

指摘 5：安全や個人への配慮は何か。

返し：太陽を直接見ない。遮光板は太陽観察用の適合品を教師が点検して使う。虫眼鏡・望遠鏡・双眼鏡で太陽を見ない。暑さや天候に応じ観察を中止する。実施前の点検ができない活動は共通の記録資料に替え、B(2)の問いを考える機会を確保する。

指摘 6：資料やICTはどのように使うか。

返し：同じ棒のかげを同じ場所で時間をおいて記録し、方位を書き添える。太陽の見える方向を安全な方法で確認し、かげの向きと対にして矢印で表す。観察できない時間の結果は作らず空欄にする。画面は拡大や並列表示に使い、端末がなくても印刷した同じ記録で比較できるようにする。ICTの操作の速さは評価しない。

指摘 7：時数の根拠と削る場合の考え方は。

返し：全9時間は東京書籍の年間指導計画による。各次の配分は本案の提案である。削る場合も「太陽の位置が変わると、かげの向きはどう変わるだろうか」を追究する記録と説明の時間を残し、同じ資料を読む重複や清書の方法を見直す。安全確認や実物を確かめる過程は省かない。

指摘 8：振り返りと次の指導をどうつなぐか。

返し：「太陽の位置が変わると、かげの向きはどう変わるだろうか」について最初の考え、根拠にした記録、まだ残る疑問を読み比べる。太陽の位置とかげを図で説明する活動で根拠が不足した児童には、その記録を次時の導入に戻して確認する。態度は感想の長さではなく、調べ方や説明を見直す行動を継続して見る。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

